

## 環日本海交流の推進

環日本海国際フェリーは、航路開設から2年8カ月余りが経過しますが、今日まで安定運航が続いていることから、対岸諸国と本市を結ぶインフラとして定着し、外国人観光客や貨物量も増加傾向にあります。

燃料費の高騰や東日本大震災の影響、さらには他社による競合航路開設の動きなど、運航会社におかれましては、経営状況が大変厳しいながらも航路の安定化に向け最大限の努力をなされているところであります。



境水道を航行するDBSクルーズフェリー・イスタンドリーム号

この航路は、当圏域の発展に欠かすことのできない「海の道」であるとの認識のもと、これまで初動3年間の期間を定めて支援を行ってまいりましたが、航路をより一層安定化させるため

に、本市としましては、鳥取県や中海市長会と協調して、さらに1年間、支援を継続してまいりたいと考えております。

なお、本年1月、特殊梱包などを展開する企業が米子市で本格操業を始め、境港の輸出入機能の強化が図られました。これにより本航路のみならず境港のより一層の利用促進が図られ、課題であります貨物の確保に繋がるものと考えております。

一方、「空の道」では、引き続き、関係機関を通じ、ソウル便や台湾をはじめとする国際チャーター便への支援を行い、さらなる利用促進に努めてまいりたいと考えております。

また、昨年、鳥取県が中国・上海の格安航空会社「春秋航空」に要請していただきましたチャーター便につきまして、定期化にはいたっておりませんが、今年29日に上海・米子鬼太郎空港間で運航されることとなりました。

この度の運航は、将来定期化の可能性を感じさせる非常に明るいニュースであり、本市としてもしっかりこの機会に環日本海オアシス都市・境港としての魅力をPRするとともに、定期化に向け、鳥取県と連携を図り、さらなる受入態勢の充実を図って

まいりたいと考えております。今後も「海と空の道」は、共通の財産であるという認識のもと、圏域全体で航路の利用促進に努めてまいりたいと考えております。

## 観光振興

平成23年の「水木しげるロード」の観光入込客数は、2年連続で300万人を突破し、今や全国に誇る観光地として定着したと考えております。

こうした中、平成24年度は、誕生以来20年目を迎え、さらには、通算入込客数が2千万人を突破する見込みとなっていることから、セレモニイなどの記念事業を盛大に実施することとしております。

現在、「水木しげる記念館」は、改装工事等が順調に進み、いよいよ今年8日にリニューアルオープンを迎える運びとなりました。

当日は、この日に90歳の誕生日を迎えられる水木しげる先生をはじめ、多くの関係者の皆様をお招きし、賑やかに記念セレモニイを開催することとしております。

また、平成22年度に策定した「境港市観光振興プラン」につきましては、関係者のご努力に

より、現在、重点施策33項目中、18項目について実施済みもしくは着手済みの状況であります。平成24年度におきましても、引き続き、関係者の皆様と本プランを推進し、「新たな妖怪ブロンズ像の設置」、「情報発信・連携強化事業」などに取り組み、賑わいの継続に努めてまいります。

広域観光連携におきましては、従来の中海圏域に、4月から出雲市が加わることとなっております。鳥取県西部の町村も含め、この圏域の大幅な魅力向上が期待されております。

さらに、本年は、鳥取県において、「国際まんが博」と「国際マンガサミット」、鳥根県を中心に、「古事記編さん千三百年」関連行事などの大型イベント、さらに全国のJRグループ挙げの大型宣伝キャンペーン「山陰・デスティネーションキャンペーン」が実施されます。

この圏域にとつては、またとない全国発信の好機となるため、本市においても関連事業の実施や情報発信などを通じて、イベントやキャンペーンを大いに盛り上げてまいりたいと考えております。

境漁港における平成23年の水揚げ量は、14万7千トン余、前年比約25%増で全国3位、水揚げ金額に关しても19.4億円余、前年比約27%増で全国9位となりました。



イワシ類やクロマグロ漁が豊富漁だったこともあり、水揚げ量水揚げ金額ともに大幅に増加したものの、魚価の低迷、資源の減少、漁業就業者の減少と高齢化、漁船の老朽化など、さまざまな課題を抱えております。

このような状況の中、漁業就業者対策として、新たに漁船員を雇用し技術習得のための研修を行う企業に、引き続き助成を行うほか、平成24年度は、新たな施策として、沿岸漁業での独立を目指す新規就業者に技術習得のための研修を実施する漁業協同組合を、鳥取県とともに支援し、将来を担う漁業者の確保を図ってまいります。

その他、昨年から始まったぎ

## 水産業の振興

ンザケの海面養殖漁業は、4月の出荷に向け準備が進められております。さらに、数年休止されていた美保湾での放流事業については、美保湾地域栽培漁業推進協議会によりヒラメの放流を行うことが決定されており、このような「つくり育てる漁業」の拠点となる取り組みに対して、支援してまいります。

また、「境港産クロマグロ」、「境港産水産加工品」のブランド化促進や、知名度向上にも引き続き取り組んでまいります。昨年末に鳥取県が設置した「さかいみなと漁港・市場活性化協議会」におきましては、水産・観光業界の皆様と、漁港の整備・市場機能強化・食と観光との連携などについて議論を深め、水産業の振興に結びつけていきたいと考えております。

## 農業の振興

本市の特産白ネギにつきましては、栽培農家の減少と高齢化により、栽培面積が減少傾向にあります。白ネギは、本市の土壌に適し、野菜の中では単位当たり収入が比較的多い作物でありますので、産地の維持が図られるよう、引き続き、各種の農家支援を行ってまいります。また、境港市農業公社を介し

て農地の貸し借りを進めるとともに、がんばる農家プラン支援事業等により、農家の経営改善の取り組みを支援いたします。さらに、新規就農者へは、国の新制度であります青年就農給付金や鳥取県の就農条件整備事業等の活用により営農初期の負担軽減を図ってまいります。「伯州綿」の栽培につきましては、境港市農業公社において、遊休農地を活用し、栽培サポートが栽培する畑も含めて、2・3ヘクタールの畑で栽培する計画であります。綿糸は、「弓浜緋」の原料にも



市役所や福祉の店「浜っ子」で販売中の伯州綿製品、「伯州綿お箸セット」(左)と「ワッフル織りタオルハンカチ」(右)

供給し、境港市農業公社と鳥取県弓浜緋協同組合は、展示会、販路開拓の一部を共同作業で行い、伝統工芸品「弓浜緋」および伯州綿製品の両方の認知度アップと販売促進を図り、地域資源「伯州綿」の活用による地域の活性化を目指してまいります。

なお、全国コットンサミットを本年10月に本市で開催し、国内の綿花生産者とメーカーの共同・連携の輪を広げ、生産、商品開発、販路開拓など、現在国産綿花が抱える課題の解決を図ってまいります。

## 商工業の振興

東日本大震災の影響や未曾有の円高など企業を取り巻く環境は厳しさを増しており、本市においても、経済情勢は依然として低迷しております。引き続き、国や鳥取県の金融政策と連携して制度融資の充実に努め、市内企業の経営を支援してまいります。

また、県内の厳しい雇用状況をふまえ、鳥取県雇用創造協議会が行う企業ニーズにあった人材育成研修を活用して、就職に結びつくように支援を続けてまいります。

企業誘致につきましては、国

際定期航路を有する空港や港湾といった社会基盤をセールスポイントとして、鳥取県などの関係機関と連携を取りながら、市内への企業誘致を進め、地域経済の活性化、雇用創出に取り組んでまいります。

## 中海護岸整備

渡漁港の西側への移設工事は、国土交通省の斐伊川河川整備計画の中で、早期に整備が必要である箇所と位置づけられており、平成24年度より漁港の北側から工事に着手し、平成26年度中に完成する予定であります。

また、この工事と並行して本市が行う市道改良整備ならびに既存漁港部分の埋立て工事につきましては、平成24年度までに用地取得や埋め立て免許の取得などの法手続きを完了し、平成25年度より本格的な工事に着手することとしており、平成32年ごろの完成を予定しております。同じく早期に整備が必要である箇所として位置づけられている外江町の貯木場につきましては、国土交通省と所有者の間で整備方法についての協議が進められているところであります。

## 境港の港湾整備事業

境港は、昨年11月、国土交通省より日本海側における機能別拠点港として、「原木取扱い」、「国際海上コンテナ輸送」ならびに「外航クルーズ背後観光地」の3つの機能において選定されました。国による事業の選択と集中という方針が示される中で、新規港湾事業が重点的に行われる港として位置づけられ、本市が掲げる「北東アジアに向けた西日本のゲートウェイ」として大きくその一步を踏み出しました。「原木取扱い」関連につきましては、国の直轄事業として中野地区国際物流ターミナル整備が平成24年度予算で新規事業採択となり、整備に着手される見通しとなっております。「国際海上コンテナ輸送」については、平成23年速報値で、外国とのコンテナ貨物量が過去最高となる1万8436本を記録し、今後、さらなる増加が期待されることから、境港管理組合が昭和南地区の国際コンテナターミナル拡張事業に平成24年度から着手される予定と伺っております。また、「外航クルーズ背後観光地」の分野においても、昨年11月に境港を含むアジア地域の6カ国・9港でアジアクルーズターミナル協会が設立され、国